

パネル調査による盛岡のイメージ解析

岩手大学 正会員 安藤 昭
 岩手大学 正会員 ○ 赤谷 隆一
 岩手大学 学生員 高橋 秀典

1. はじめに

盛岡市は杜と米の都と呼ばれて久しい。しかし近年新幹線が上野に直結するにつれて、次第に北東北の中大都市たるべく、街は高層ビル、マンション、ホテルが建ち並び急激に都市化が進行してきている。一方において盛岡の個性的風景が消失してきているのである。このことは、ほぼ5年前に当研究室で行った盛岡のイメージ再生についての調査結果と、今回の同様の調査結果の比較からも推察される。(前回イメージ再生率の高か、た上位の要素が今回低くな、っているなど。)(図-1)

本研究の目的は、パネル調査によりイメージ再生された「ところ」、「景色」についての傾向分析を行い、あわせて個人属性とのクロス集計分析を進めることによって、どの階層の、どのような市民にイメージの変容がみられるのかを追求することである。(図-2にそのフローを示す。)

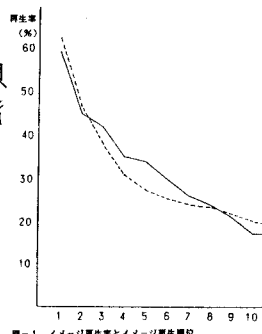


図-1 イメージ再生率とイメージ再生順位

2. 調査対象、調査地域および解答者

調査対象は盛岡市内とその周辺の景観であり、調査地域は盛岡市全域である。

被調査者は前回(昭和56年調査)回答のあった404人であり、今回の回答者は、105人で回収率26%であった。(表-1)

3. 調査の方法および調査期間

調査の方法は、自記による言語イメージ再生法で第1回目、第2回目とも表-2に示す質問項目でアンケート調査を行った。調査期間は1回目が昭和56年1月5日～24日、2回目が昭和60年11月1日～20日で約5年が経過している。

4. 傾向分析の結果

再生率が25%以上の再生要素を都市景観イメージを考えるうえで核となる要素と考えてコアエレメント、10%～25%のものを景観を操作するうえで鍵となる要素と考えてキーエレメント、10%未満で再生率がコンスタントの値を示す要素までをセミパブリックエレメント(本研究では「ところ」で5%、「景色」で3%)、それ以下をパーソナルエレメントと呼ぶものとする。ここでは、セミパブリックエレメント以上の要素について分析を進める。

図-3に示した「好きなところ」の再生率において、前回と比較し再生率の上がった要素中、御所ダム、県立博物館はキーエレメントからコアエレメントへ、盛岡駅はセミパブリックエレメント(都市に個性を添え、都市景観形成の点で大切な要素)からコアエレメントへの伸びを示している。また、旧岩銀本店、北山寺院群、岩手大学構内はセミパブリックエレメントからキーエレメントへ上昇している。

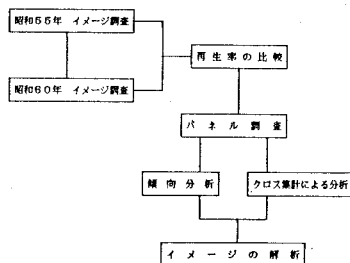


図-2 本研究のフローチャート

表-1 調査実施概要

昭和55年				昭和56年			
	20年未満	20年以上	計		20年未満	20年以上	計
男	21	38	59	男	16	43	59
女	20	26	46	女	17	29	46
計	41	64	105	計	33	72	105

表-2 アンケート調査の質問項目

お名前 _____ 年齢 _____ 性別 男 女
 盛岡市在住年数 _____ 年

1. Q1. 盛岡市および周辺で好きな「ところ」、または好きな「景色」(「場所」から見た「対象」へ)は何ですか。思い浮かぶままに出来るだけたくさん具体的に書いて下さい。

Q2. Q1で書いたものの中で、最近10年ぐらいの間に意識的に見て、悪くなったと思われるものはどれですか。その番号を思い浮かぶ順序にすべて記入してください。

イ() ハ() ニ() ホ()
 エ() ケ() サ() リ() ヌ()

Q3. 前ページのQ1で書いたものの中で、最近10年ぐらいの間に意識的にみて、良くなってきていると思われるもの(新しく生まれ変わった要素を含む)はどれですか。その番号を思い浮かぶ順序にすべて記入してください。

ア() イ() ウ() エ() オ()
 カ() キ() ク() ケ() コ()

Q4. Q1で書いたものの中で、これまでほとんど変化していないと思われる要素はどれですか。その番号を思い浮かぶ順序にすべて記入してください。

ク() ケ() コ() サ() セ()
 シ() ス() タ() テ() ト()

再生率が5%以上、上がっている要素には他に中央公民館、八幡宮、大慈寺、橋本美術館がある。前回よりも下がっている要素には、コアエレメントからキーエレメントへ下がった岩山、キーエレメントからセミパブリックへ下がった岩手山、変岩山、北上川があげられる。5%以上下がっている要素には四十四田ダム、中津川、栗石川がある。図-4には、「好きな景色」の再生率のグラフを示す。再生率が上がった要素にはキーエレメントからコアエレメントとなった開運橋から見た岩手山、岩山～市内、セミパブリックからキーエレメントへ上がった明治橋～岩手山、岩山～夜景、四十四田ダム～岩手山、岩山～岩手山があげられる。夕顔瀬橋～岩手山はセミパブリックからキーエレメントへ7%も上昇している。また、旭橋～岩手山の新しい景色もキーエレメントにあげられている。再生率が下がった要素は、岩手公園～岩手山、上の橋～中津川、中津川～岩手公園がある。

表-3はイメージ再生された景観の最近10年間における評価についての結果である。最近10年間で良くなったと言える要素は前回の調査では6要素あったものが今回の調査では3要素に減った。御所ダム、県立博物館、盛岡駅はともにイメージ再生率が大きく上昇したものである。大慈寺はどちらの調査でも変わらないと言える要素にあげられている。悪くなると言える要素には、岩手公園～岩手山があげられている。

5. まとめ

以上のことから、①自然資源である岩山、岩手山、南昌山、中津川、北上川が、人文資源では県民会館、四十四田ダム、上の橋、夕顔瀬橋などが、「好きなところ」としてのイメージ再生率が下がってきている。

②岩手公園～岩手山の「景色」のイメージ再生率が下がっている。有差検定においても悪くなると言える要素に2つの調査で出現していることから、年々市の中心部に位置する岩手公園が、高層ビルに囲まれ景観的価値が低くなっていることがわかる。

③岩手山の「ところ」としてのイメージ再生率が下がっている反面「景色」では北上川に架かる夕顔瀬橋、旭橋、開運橋等の橋から見える岩手山のイメージ再生率は上がっていることから、市内のどこからでも見えていた岩手山が、建築物等により見えなくなってきたために、眺望の確保がされている場所からの景色のイメージが強くなると考える。

④表-3の良くなると言える要素の御所ダム、県立博物館、盛岡駅は周辺整備を数年来進めていて新しい景観を生み出しており、特に盛岡駅は、新幹線開通による駅舎の建て替えや駅前再開発などによる周辺整備によってここ5年間で急に評価が高くなった。これらに比較し周辺整備もすでに終了しその後あまり手のつけられていない四十四田ダム、県民会館などはイメージ再生率が下がっていることから、新しい景観に対する市民の反応が鈍微であることがわかる。

⑤大慈寺が変わらないと言える要素となっているのに今回のイメージ再生率が高くなっているのは、都市化の進む中で歴史的景観が相対的に重要なものとなってきているためであろう。旧岩銀本店、八幡宮、北山寺院群のイメージ再生率が上がったのもこのことを裏づけているといえる。

なお、パネル調査によるクロス集計分析結果については講演時に発表する予定である。

参考文献：1) 安藤 昭：都市景観計画における評価に関する研究、文部省科学研究費助成事業、林計画における評価に関する研究、pp86-94、1983

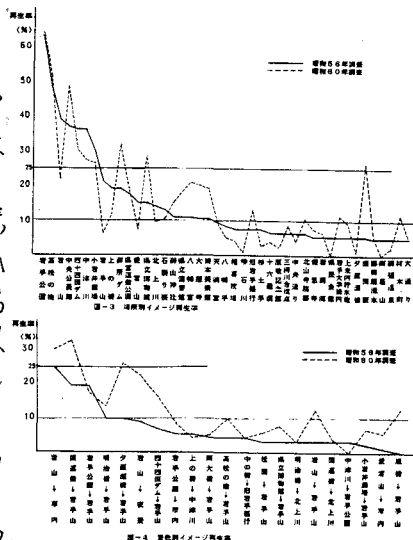


表-3 イメージ再生された景観の最近10年間における評価

	昭和56年調査	昭和60年調査
良くなったと言える要素 Q3>Q2 Q3>Q4	御所ダム 中央公民館 県立図書館 盛岡駅 盛岡運動公園	御所ダム 県立博物館 盛岡駅
Q3>Q2 Q3>Q4		中央公民館
変わらないと言える要素 Q4>Q2 Q4>Q3	大慈寺 天満宮	大慈寺
Q2>Q3 Q4>Q3	岩手山 小岩井農場	岩手公園 夕顔瀬橋～岩手山
悪くなったと言える要素 Q2>Q3 Q2>Q4	高松の池 岩山 杉土手 岩手公園～岩手山 岩手公園～市内	岩手公園～岩手山

※ Q2：最近10年間に悪くなったと言える要素
Q3：最近10年間に良くなったと言える要素
Q4：最近10年間で変わらないと言える要素
比率の有意差検定（危険率5%）